

## 平成30年度 第1回まちづくり委員会議事録

日時：平成30年6月14日（木）

17:00～20:00

場所：役場2階会議室

### 【1】開 会

●委員の出席者は14名であり、過半数を満たしているため、本会議は成立となる。

●出席者

委員：長谷川宏・板東康治・西森研一郎・植田勝夫・新田睦・大関匡志・福原福博・木下直美・  
松田陽子・井口真幸・山前幸介・松田充浩・古村卓也・吉田恵介 ※敬称略 計14名  
説明員：建設水道課 長野参事、丘のまちびえい活性化協会 後藤事務局長  
事務局：政策調整課 今瀧課長、佐竹補佐、三浦係長、田野主任

### 【2】委嘱状交付

### 【3】挨拶 浜田町長

### 【4】議 案

#### (1) 会長、副会長の選任について

選任について意見等はなく、事務局案を提示。

事務局案：会長に長谷川氏、副会長に坂東氏を推薦。⇒異議なし。事務局案で承認。

#### (2) 議題

- ・下水汚泥等を原料とする汚泥発酵肥料の利用基本計画（仮称）の策定について【建設水道課】  
（資料1）

平成30年1月から稼働しているコンポストヤードにおいて、下水処理場及び浄化センターで発生する汚泥を処理して堆肥化している。現状は試験的な運用をしているが、今後の利活用方針を定めることを目的に、基本計画を策定し、次年度以降検証を進めながら具体的な方向性を検討していきたい。今回は基本計画の骨子案を説明する。その内容は、現在の汚泥の処理状況から生産計画を定めるとともに、生産方針及び利用方針を記載したものとなる。

（委員）下水処理場や浄化センターから年間どれくらいの汚泥が発生し、その内のどれくらいがコンポストヤードで処理されるのか。また、今まではどのように処理されていたのか。

⇒H29は、下水処理場から522t、浄化センターから178tの汚泥（乾燥させた状態）が発生している。今後は2つの施設で発生した全量がコンポストヤードで処理されることとなる。これまでの処理は、地域の堆肥生産組合に依頼し処理していただいていたが、課題が多くあったことから、補助事業を活用して新たなコンポストヤードの整備を進めた。

(委員) 肥料の販売は検討していないか。

⇒今は利用基本計画を策定する段階であり、検討はしていない。もし販売するとした場合には、パック詰めの方法や、料金設定など、いろいろと検討すべき課題があると認識している。

(委員) 脱水ケーキを乾燥させる方法はどのようなものか。また下水処理場からコンポストヤードへの移送の過程で悪臭が発生すると思うが周囲に影響はないのか。

⇒脱水ケーキについては、下水処理場等で遠心分離機によって脱水処理する。脱水ケーキを作る段階で既に発酵促進剤を投入して発酵させているため、移送中の悪臭の発生は抑えてられている。また、コンポストヤードで堆積している汚泥も周囲への悪臭は軽減されている。

(委員) 建築費用等を考慮すると、他地域のように焼却した方がコスト的に有利になるのではないか。

⇒焼却等により産廃処理をした方が肥料化よりコスト高となる。下水汚泥は将来にわたり永続的に発生するものなので、環境への負荷面も考慮し、従来からの肥料化、再資源化の方向性で検討した。

(委員) 年次の計画は検討されているか。また、重金属についての扱いはどのように考えているのか。

⇒次年度以降、実績を考慮して詳細な利活用方法を検討していく。重金属についても、基本計画に基づいて具体的な方向性を検討していく。

(委員) 汚泥を活用した肥料はC/N比が高くなる傾向にあるがどの程度か。また、活性汚泥はベタベタ状態になりやすい認識であるが改善されているのか。

⇒3月に登録したものはC/N比が18であり、20以下という基準を満たしている。また、亜鉛や銅などの微量な成分が多く、作物によっては効果が高いと考えている。肥料はおが粉を混ぜて生産することもあり含水率が低く、さらさらとした状態となる。

(委員) 家庭菜園や農業用に活用するのであれば、詳しい人間に試用してもらいデータを蓄積していくと良いのでは。

⇒農業技術センター「みのり」において試験栽培を行い、データを取っていきたい。

本案件は、具体的な計画について、再度まちづくり委員会にて説明する。

#### ・CRM事業の概要について【丘のまちびえい活性化協会】(資料2)

美瑛ファンを拡大していくことが目的であり、来訪者の満足度の向上、滞在時間及び消費額の増加、再来訪率の向上のプロセスで来訪者を美瑛ファンに結びつけていきたい。その延長上には、移住者の獲得の可能性も考えられる。事業の3つの柱としては、観光客の分析、連絡先のデータベースの構築、美瑛町からの情報発信となる。

満足度を高めるためには、どのような方が美瑛町に来ているかを知る必要があるため、昨年度からアンケートキャンペーンを実施しており、同時に回答者にメールアドレスを登録してもらうことで、その後の美瑛町からの情報発信につなげている。

昨年度のアンケートでは、町内の飲食店、宿泊施設、観光施設等の約 200 箇所に QR コード入りの広告物の配置をご協力いただいた。外国人観光客のデータを収集するため、回答フォームは 4 言語（日本語、英語、簡体、繁体）に対応させた。アンケート結果からは、美瑛町来訪者の特徴を把握することができた。その中でも、美瑛町への訪問 10 回目以上の方が約 23%と多く、その後のメールマガジンの開封率も約 40%と高いことから、今後美瑛町から有効に情報発信ができる基礎を構築できたと考えられる。

観光誘致を行う理由については、観光庁の資料を参考にすると、居住者の年間地域内消費額を観光客の旅行消費額に換算し、人口減少分を交流人口の増加でカバーすることで、地域内の経済循環を維持することができるため、観光客が町内で消費行動を行う仕組みを検討していく必要がある。

(委員) 様々な事情が絡み合う中で多々観光問題が発生している現状において、観光資源をどのように考え、保全していくのか、町民に対して聞き取りをしていく必要があると思うが。

⇒観光資源の保全、観光客の誘致、観光客の消費額を上げることはそれぞれ別の課題が存在しているので切り分けて考える必要があると考えるが、DMO は観光資源の保全等について検討する窓口の一つとして可能性があると考えている。

(委員) 観光客が美瑛町で何を消費しているのかは調査しているか。また、それぞれのショップで何が売れているのかを把握することによって課題が浮き彫りになると思うので、それを基に町内で考える機会を設けると良いのではないか。

⇒平成 29 年度のアンケートにおいては消費額しか調査していなかったため、平成 30 年度は何に対する消費額かを質問項目として設定している。また、報告会で報告した項目は、観光協会や商工会、農協にどのようなデータが必要かヒアリングして定めて、活性化協会でも分析した内容を報告した。次回の報告会では、参加者が一緒に議論するような場を設定することも必要かと考えている。

⇒課題が明らかになった後、ある一定の方針が共有されることになると思うが、各店舗独自の取り組みがなされることで、美瑛町の多様性が生まれてくるのではないか。その点からも町全体の課題やそれに対する方針を投げかけた上で、考える機会を設けると良い。

#### ・平成 29 年度地方創生に係る各種事業報告について【政策調整課】(資料 3)

平成 29 年度の事業実績について説明。

(委員) 北海道大学との連携はいつから行っているか。また、アクションプランの設定とは具体的にどのようなことに取り組んでいるのか。

⇒北海道大学との連携は平成 26 年度からの 3 箇年で景観計画の策定を実施した。平成 29 年度からは、同じく 3 箇年の期間でアクションプランの策定について検討している。具体的な取り組みとしては、町民が主体となって実践可能な活動について考える機会として景観セミナーを開催している。また、観光客の農地侵入問題の対策として視点場の設置を検討しているが、平成 29 年度においてはどの場所に設置することが効果的なのかを分析している。その他に、市街地の景観づくりとして空き地の活用方法についても検討している。

(委員) 移住定住を推進するにあたり、美瑛町には借家が少なく感じている。賃貸以外の方法と

して住宅を新築する方法があるが、住宅建築に対する助成はないのか。

⇒活性化協会にて助成を行なっている。

(委員) 評価基準として転入者と転出者の差をあげているが、転入者を増やすために効果的な事業はこの中で何になると考えているか。

⇒移住する上では町内に仕事があることが重要であり、活性化協会の起業支援に係る助成は効果的と考える。

(委員) それぞれの事業の接点を見つけて結びつけた事業に交付金を手厚く配分すると良い。

### (3) まちづくり委員会座談会の件について

本年もビエールカフェを会場に座談会を開催し、委員会の議論とは別にざっくばらんな意見交換を実施したい。本年は可能な限り毎月の実施を予定しており、テーマについては委員からも提案いただきたい。

### (4) 視察研修の実施について

昨年いただいたご意見を参考に事務局でテーマと視察候補先を仮に設定した。視察先について提案があれば7月中にご連絡いただきたい。なお、8月中には視察先や日程を決定し、11月以降に視察実施のスケジュールで進めていく予定。座談会の中でも意見を伺いたい。

### (5) その他

特になし

## 【5】 閉 会

「下水汚泥等を原料とする汚泥発酵肥料の利用基本計画（仮称）」の骨子案  
～今後の汚泥発酵肥料の利用方針について～

平成30年6月  
建設水道課水道整備室

## 構成

- 1 本計画の目的
- 2 下水汚泥等処理状況
- 3 汚泥発酵肥料の生産計画
- 4 汚泥発酵肥料の生産方針及び目的別の利用方針
- 5 おわりに

### 1 本計画の目的

下水汚泥に係る背景やコンポストヤード整備の経緯について記載し、町内で発生する汚泥を将来にわたって適正に処理し、住みよい環境づくりと本町の豊かな緑環境の維持向上を目的として、当該計画を策定する旨を記載。

### 2 下水汚泥等処理状況

下水処理場及び浄化センターにおける処理状況について、これまでの処理状況と、コンポストヤード稼働後の処理状況について記載。

### 3 汚泥発酵肥料の生産計画

汚泥発酵肥料の生産見込み数量を記載。

⇒ 工程、フロー図、生産計画を含む。

### 4 汚泥発酵肥料の生産方針及び目的別の利用方針

汚泥発酵肥料の特性を挙げるとともに、利用にあたっての基本的事項を記載。

町の公共施設の維持管理や町内会等が行う緑化活動での植生利用を先行させ、これらの施用結果を踏まえ段階的に利用範囲を拡大していく旨を記載。

#### 汚泥発酵肥料の生産方針

- ① 肥料登録
- ② 品質向上
- ③ 悪臭防止

#### 目的別の利用方針

- ① 公共施設の緑化推進
- ② 住民等の活動による緑化推進
- ③ 家庭菜園や農用地への施用

⇒ 家庭菜園や農用地への施用については、肥効、安全性、施用方法及び作物等への影響等の評価を行い、検討を進める旨を記載。

### 5 おわりに

本町の循環型社会形成に資するよう、町、関係機関及び住民が協力し、本計画の実行に努めていく旨記載。

#### 出典・参考文献を記載

#### 巻末資料 汚泥発酵肥料の成分を記載

## 平成30年度 第1回まちづくり委員会議案

日時 平成30年6月14日（木）

午後5時～

場所 役場2階会議室

### 1. 開会

### 2. 委嘱状交付

### 3. あいさつ

### 4. 議案

#### (1) 会長、副会長の選任について

#### (2) 議題

・下水汚泥等を原料とする汚泥発酵肥料の利用基本計画（仮称）の策定について【資料1（水道整備室）】

・CRM事業の概要について【資料2（丘のまちびえい活性化協会）】

・平成29年度地方創生に係る各種事業報告について【（資料3（政策調整課）】

#### (3) まちづくり委員会座談会の開催について

#### (4) 視察研修の実施について

#### (5) その他

### 5. 閉会

# ○H29地方創生推進交付金活用事業(交付金額85,496千円)

資料3

事業名	事業概要	交付金充当経費の内容 (カッコ内は交付対象経費)	交付対象事業に要した経費 (カッコ内は充当額)	重要業績事業指標(KPI)	事業終了後の実績値	KPIとの差
美しい景観を活かした人と人とがふれあう住んでみたいまちづくり創造事業	<p>大地に育まれた火山と共生する美しい丘のまちといった「ジオパーク」の推進や、美瑛町の様々な歴史を取り入れた「郷土学館」を拠点とした美瑛学の充実、観光交流人口の拡大による地域の活性化に向け、本町の様々な地域資源が集まる白金地区の整備を実施する。これによりスポット型観光から滞在交流型観光へと転換を図り、訪問でも定住でも満足のできる観光地域づくりを推進する。</p> <p>また、美瑛町を訪れる観光客や美瑛ファンを移住定住につなげる施策として、事業推進主体である活性化協会への宅建士を配置して空き家バンクの運営等の空き家対策に取り組み移住希望者の窓口となるよう整備を進めるほか、廃校となった学校の教員住宅を再利用、定住促進住宅として整備するなど、移住希望者への環境整備や移住後の出産、子育てに適した環境づくりに取り組むことで、本町の強みである交流人口をより効果的に活かした人口減少対策とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●花と緑の景観づくり事業(11,010千円)</li> <li>●景観づくりリーダー養成研修会実施経費</li> <li>●景観維持ボランティア運営費</li> <li>●景観づくり事業費</li> <li>●北海道大学と連携した景観まちづくり推進事業</li> <li>●十勝岳ジオパーク構想推進事業(5,350千円)</li> <li>●推進協議会運営費</li> <li>●特色ある教育の実現による人材育成事業(1,423千円)</li> <li>●特色ある推進事業</li> <li>●情報発信体制再整備事業(11,949千円)</li> <li>●ヤフーと連携した情報発信体制構築</li> <li>●観光拠点再整備事業(56,213千円)</li> <li>●観光スポット再整備</li> <li>●観光スポット・拠点ライトアップ事業</li> <li>●青い池周辺環境整備事業</li> <li>●町内循環バス運行事業</li> <li>●観光マスタープランに基づく観光戦略</li> <li>●国際観光交流推進事業(5,900千円)</li> <li>●地域食材活用・特産品等開発等美瑛ブランディング事業(11,055千円)</li> <li>●定住促進事業(68,152千円)</li> </ul>	170,993千円 (うち85,496千円が交付金)	転入者と転出者の差 (申請当初-27人) H29 -17人	転入者と転出者の差 (申請当初-27人) H29 -47人 (転入308名、転出355名)	転入者と転出者の差 -20人

## H29地方創生推進交付金活用事業

### 【地域資源の保全・伝承】

#### ●花と緑の景観づくり事業

##### ・景観セミナー実施経費 (212,400円)

北大・寒地土木研究所等と連携し、景観が持つ意味(価値)を再確認し、景観を活かしたまちづくり推進のためワークショップ形式で開催。

第1回:H29.12.14(31名) 第2回:H30.1.31(30名) 第3回:H30.3.8(29名)

##### ・景観づくり事業費 (1,259,350円)

本通り緑化整備補助金、日本で最も美しい村づくり協議会推進事業補助金  
プランター設置用花種代(公共施設へ配置)

##### ・北海道大学と連携した景観まちづくり推進事業 (2,999,160円)

H26に策定された景観計画を具体的に実行するためのアクションプランを策定するための受託研究費  
空間構造分析、担い手育成形成基礎調査(関係団体へのヒアリング)、景観セミナー

##### ・景観維持ボランティア運営費 (6,539,602円)

観光協会への補助金(観光アドバイザーに係る経費) ※アドバイザー16名

#### ●十勝岳ジオパーク構想推進事業

##### ・美瑛町分の推進協議会運営費 (5,350,000円)

計画準備・資料作成費、全国大会・研修会旅費、専門部会活動費等

#### ●特色ある教育の実現による人材育成事業

##### ・十勝岳火山噴火防災講演会 (70,765円)

噴火に備えた行動を考え火山災害に対する意識向上を目的に開催

旭川気象台・森林管理署・北大大学院教授より講演

H30.2.28 町民センターで開催(関係機関・一般参加者213名)

##### ・ふるさと学習 (1,352,605円)

山岳、丘陵、産業等の美瑛学(郷土学)を学ぶふるさと学習を各学校で実施。

中学校:キャリア教育講師(町内農業者・佐治先生・ヤフー(株)、アスペルジュでの食体験経費)

### 【正しい情報を必要な人へ、より遠く多くの人々への情報発信事業】

#### ●情報発信体制再整備事業

##### ・CRM導入費用 (11,949,121円)

### 【美瑛町ブランド力向上事業】

#### ●観光拠点再整備事業

##### ・観光スポット・拠点ライトアップ事業 (5,231,068円)

##### ・観光スポット再整備 (8,500,000円)

H29.5.7桜まつり、青い池のライトアップ(11月~3月)に係る経費

国際写真フォーラム開催経費

H29.4.29オープニングイベント(基調講演、パネルディスカッション)250名来場

H29.4.29~5.14 街なか写真展(ビ・エール他9施設及び商店街ショーウィンドー)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光マスタープランに基づく観光戦略事業（4,112,603円） 観光マスタープラン策定に係る北大受託研究費 観光マナー看板・チラシ作成費（観光協会）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・青い池周辺環境整備事業（33,415,200円） 白金ビルケの森整備（案内看板・公衆トイレ改修） インフォメーションセンター備品購入費</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内循環バス運行事業（4,954,965円） 美遊バス運行経費（観光協会）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●国際観光交流推進事業（5,900,785円） H30.4.4～8中国上海で実施の美瑛写真展開催経費 他 国際写真フォーラム開催費用</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域食材活用・特産品等開発等美瑛ブランディング事業（活性化協会）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・美瑛ブランディング事業（7,113,634円） 美瑛町のブランドイメージの定着を図るため、美瑛ブランドにふさわしい特産品や サービスを提供する。ブランディング委員会により認定（16商品認定） ビエイティフルパンフレット印刷（10,000部）、アンテナショップ運営費等</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域食材活用普及事業（3,941,506円） H29.7.29～30 美瑛産食材の普及のためのイベントを実施。みのり（麦、ジャガイモ）、本山農園（トマト）の収穫体験（延べ138名） トンテキの共同PR（パンフレット作成）、その他商品開発中</li> </ul>

#### 【移住定住促進事業】

<ul style="list-style-type: none"> <li>●移住促進事業</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・定住促進事業（42,773,614円） 定住促進住宅の改修 5件（3件入居、1件入居予定、1件未定） ビルケの森セカンドホーム改修費 ※利用後住宅新築し移住に繋がっている 活性化協会実施の定住住宅取得補助 19件（転入加算11件、子育て世帯加算11件）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き屋空き店舗対策事業（9,922,000円） 空き屋対策計画策定業務委託料 商店街活性化事業補助金（購入費・改修費・賃借料） 3件</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住対策フェア（1,119,690円） 北海道暮らしフェア2017出展料（H29.10.14名古屋 H29.10.15大阪 H29.11.11東京） 移住ガイドブック印刷（3,400部作成）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業分野移住促進事業（14,337,088円） 農業労務確保対策事業補助（JA） 農作業ヘルパーに係る経費（募集広告、住宅費） 22名採用 農業振興機構負担金（担い手育成事業に係る経費） 短期研修生6名、長期研修生2名 新・農業人フェアでの個別相談（札幌2回、東京2回、大阪1回） ブース来訪者 延38組</li> </ul>

平成30年度 地方創生推進交付金 交付申請内容

事業費総額—116,604千円、交付額—58,302千円(事業費の1/2)

**【地域資源の保全・伝承】**

- 花と緑の景観づくり事業  
景観づくり事業費（駅前緑化整備）  
北海道大学と連携した景観まちづくり推進事業
- 十勝岳ジオパーク構想推進事業  
推進協議会の運営
- 特色ある教育の実現による人材育成事業  
特色ある教育推進事業（ふるさと学習実施の支援）

**【正しい情報を必要な人へ、より遠く多くの人々への情報発信事業】**

- 情報発信体制再整備事業  
情報戦略推進事業  
美瑛CRM導入事業

**【美瑛町ブランド力向上事業】**

- 観光拠点再整備事業  
観光スポット・拠点ライトアップ事業  
美瑛町商店街活性化事業  
サイクルツーリズム推進事業
- 国際観光交流推進事業  
国際観光交流推進事業（インバウンド対象の企画）  
写真文化創造事業（国際フォトコンクール等の実施）
- 地域食材活用・特産品等開発等美瑛ブランディング事業  
特産品等開発事業

**【移住定住促進事業】**

- 移住促進事業  
移住定住促進住宅の改装  
農業分野移住促進事業  
移住対策フェア（大都市圏での実施）  
移住・起業・創業等支援事業